

FD 活動の報告

糊 山 洋 介

日本語日本文化教育部門では、平成14年にFD班を設け、以後、現在に至るまで、日本語・入門講義の授業を担当する教員全員でFD活動に取り組んできた。さらに、平成16年には、留学生センターの委員会としてFD委員会を設置し、教員個々の教授能力の向上、授業の改善を目指している。

さて、平成18年度に、新たに、「従来にもまして、FD活動を効果的に行うために、課題・テーマを明確にし、継続的かつ計画的にFD活動を行う」という基本方針を立てた。具体的には、教員各自が19年度から21年度の3年間にわたるFD活動の綿密な計画を立案し、継続的にFD活動を行うというものである。このような基本方針に基づき、教員各自が「FD活動計画書」(A4サイズ、2頁以内)を作成した。

平成19年度は、上記の活動計画に基づくFD活動の一年目として、教員各自が計画に従ってFD活動を行った。さらに、各教員が「FD活動中間報告書」(A4サイズ、2頁以内)を執筆した。なお、報告書には、必要があれば、「20年度/21年度のFD計画の(部分的な)修正」も記すこととした。

今年度(平成20年度)は、上記の計画に基づくFD活動の二年目として、教員各自が計画に従ってFD活動を行った。さらに、以下の原則に基づき、各教員が「FD活動中間報告書(2回目)」(A4サイズ、2頁以内)を執筆した。

「FD活動中間報告書(2回目)」執筆の原則

1. 18年度作成した「FD計画書」(あるいは、19年度に修正を施したもの)の20年度分の各項目(「活動の目標・狙い」「実施内容」「実施内容の評価方法」)に対応する形で書く。
2. 必要があれば、「21年度のFD計画の(部分的な)修正」を書く。

なお、各教員の「FD活動中間報告書(2回目)」を一冊にまとめ、全教員に配布した。各教員の「FD活

動中間報告書(2回目)」のタイトルは以下のとおりである。

1. 初中級文法の効果的な教育を目指して
2. 中上級レベルと上級レベルの聴解授業の改善と教材作成に向けて
3. 初級学習者に対するひらがな教育の改善の中間報告(2)
4. 日本文化論教育の改善に向けて
5. 聴解能力の向上に役立つ指導法を探る
6. 話しことば教育の中での発音教育の再構築にむけて
7. 課題遂行能力ベースにもとづいた教室活動と評価活動の検討
8. 自立学習を支援する漢字指導の試み
9. 「作文教育」の充実を目指して
10. 読解教材定着の試み：音読小テスト
11. 読解教育改善に向けて
12. 初級学習者に対するひらがな教育の改善の中間報告(2)
13. 初中級読解導入のための教材とそれを用いた授業
14. 「使える会話」の会話教育を目指して 2
15. FD中間報告 50音表を用いた動詞の活用形の導入と定着
16. FD中間報告書
17. 中級後半レベルの聴解の授業における事前準備と学習効果
18. 聴解教育の改善に向けての試み
19. 学生のレポート作成に対する効果的な指導法を探る
20. FD中間報告 50音表を用いた動詞の活用形の導入と定着
21. 会話授業とフィードバック技術の改善に向けて
22. 学習活動と評価を結合した教育を目指す
23. 言語学教育の改善に向けて
24. 初級日本語コースの漢字教育